



第 1 号

平成 21 年 4 月 10 日
荒川区青少年委員連絡会
荒川区教育委員会事務局
社 会 教 育 課
登録 (21) 0001 号

IRODORI

未来ある子どもたちと共に育む 荒川区青少年委員

http://www.geocities.jp/arakawa_seisyonen/

「5～6期委員による座談会」

「長い長い青少年委員活動を 続けるには」

——日々、多忙を極める青少年委員活動。今期半ばを迎えるに当たり、新規事業の導入と既存事業の整理を目指すためのヒントや、これ以上の若い期でのリタイアの回避、ひいては、まだまだ迷いのある一期青少年委員への指針を見出していく、5～6期委員の座談会を企画いたしました。

高田 僕らが入ったころというのは、青少年委員は子ども会関係の方が多かつたんです。僕らの同期はたまたま P.T.A 関係が非常に多かったです。

針 何だかどどっと入ってきたみたいな印象を、知らず知らず与えてしまったみたいでしたね。

高田 インパクトが強かつたからね。

その1年目のときに南千住が鉄人レースを始めたわけです。中には「そんなに地区活動を優先してやるものじゃない」という反発があったのも事実ですが、まずは地域の活動があつて、連絡会については、いろいろな悩みをぶつけ合って情報交

換する場所だという思いがあつたものですから、まずは地域の中でやっていこうと。

岡田 青少年委員になる前、友達と「私たち、人生 40 を過ぎて、これから何をすればいいのかしら」と話していたんです。（笑）子育ても一段落して、このまま人生終わっちゃうのかなと。そのときに町会の方からこのお話を来た。それで、自分の育った荒川の地に何かを返しなさいと言われたことがすごく残っていたから、お話を受けて今に至っているわけです。

町屋でも、鉄人レースが始まつたときにはとても刺激がありましたよ。それが映画会の立ち上げにつながつたりして、そういう点でとてもよかつたと思います。

仲間がいる」と

清水 僕が青少年委員になつた当時は、まだ子どもが生まれたばかりだつたんです。それこそ P.T.A にも入つていないですから、知らない人ばかりの中に入つてしまつて。でも、ブロックの先輩がとてもおおらかな方だつたので、「そんなに無理しなくていいんだよ」と言ってくださいたんですね。それで知らない世界を知ることができたことが、1期2期と続けられた理由の一つですね。

安田 私は、途中で仕事がフルタイムに変わつたりして、忙しい中での青少年委員活動でしたが、ブロックの方たちの支えがあつたから今まで続けられてこられたのかなとよく感じるんです。

つたけど、定例会が終わるとブロック会だつたんだよね。南千住は特にそうだつたんだけど、定例会が終わると、いつも飲み屋で雑談しながら一杯飲んでね。

やれるかというとそうじやない。1人じや絶対にできないというのがわかつてくると、青少年委員が40人いれば、仲間を引っ張り込みながら「何かやるう」というふうになつてくるはずなんだ。

みんなそれぞれ家庭もあるし、お仕事もあるので、そんな忙しい中に引き受けているわけですか
ら無理をしてはいけない。プロックの方とか、各

高田 そうだったね。それで、どうしても11時、12時になるからやめようと。定例会の次の日は、ものすごく疲れてたもん。（笑）

青少年委員つて?

ショーンをとつていけばいいのかなと思いますね。
針 私も、仲間がいる、同期のメンバーがいる、同じブロックの人が応援してくれるというのがあつたから、いろんなことをクリアできてきたといふのがあると思うんです。

最初の1年はPTAの会長とダブっていたので「どうしよう」という感じだったんですけども、

ブロツクの人が「大丈夫。1年は目をつぶつていてあげるから。来年待ってるからね、ノンちゃん」と言つてくださつた」とで、「次からは出なきや」という感覚を持ちましたね。また、私自身の子どもがまだ小さかつたので、子育てと同時に自分も育ててもらつたみたいで、そういう青少年委員活動だつたなと思います。

実は、これまで「青少年委員はこうじやないといけない」とか「青少年委員」というのは「うううものだ」というのは、一度たりとも示された」とはないんだよね。ただ、自分の子どものころとは環境のギャップがある。自分が、悪いことをちよつとはしながらも、まともな大人になれたということを考えると、今の子どもたちにも同じ環境をキープしてあげたいと思う。でも、それを個人で

高田 全部の係をひとつおりやつて、部長クラ
スでもやれば極められるんじやないですかね。
分なりに理解できたことになるのかね。自分の理
解が100%なんて思つてもいないけどさ。

(笑) 高橋 東京都レベルで見ると、すぐへつらやましい区もあれば、微々たる予算を削られて、制度的に廃止だとかといふこともある。でも、青少年委員制度っていうのは、使いようを間違えなければいい制度だと思う。なくなつちやうなんていふのはまずあり得ないし、そう思つちやいけない

んだよね。

県の長い活動のために

高田 基本的には、「おもしろくやる」 「いやなものはいやと言おう」。それが、続していく一番の秘訣じゃないですかね。ついていくことが必要な部分はあるんですけども、「できません」と言える、「この日は出られません」と言えることも必要なんじやないかな

高橋 多分、堅苦しいことを考へると、6期なんて続かないでしよう。多分精神的にまいつちやうよね。パーソナルエクター行事に出たからって、別にだれも褒めてくれないしね。(笑) 実際の話、その人がいなければほんとうにその事業は全部だめなかというと、そういうことはないわけだから。(笑) 例えばお手伝いの事業にしても、「これだけしかいないけど、それでよければ手伝いますよ」と。それでいいんじゃないの。

針 ほんとうに、支え合って、協力し合ってやるしかないかななど。みんなそれぞれ家庭の内容も違うし、家族構成も違うし、仕事の量だって違う。体力も違うし、1人として同じ人はいないでしょう。そういう40人でやっているので、その辺はみんなで理解し合ってやつていくというのが、一つ

長続きする秘訣じゃないかなと思う。

安田 あまり負担に感じちゃうと、どんどんマイナスになっちゃう。ある意味、自分からプラスしていくような。そのプラスの部分が自分を育ててくれたと、私なんかはすごく感じるんですね。

高橋 この40人で自分から「青少年委員をやりたい」と言つた人は1人もいないわけで、結局お願いされたから受けているわけじゃないの。基本的にいい人なわけで、頼まれて断れなかつた人が40人いるんだよ。(笑)

高田 大正解だ。(笑)
岡田 大変だけど、楽しかったというのもある。カレンダーが○印ばかりで、「またお母さん、カレーなの?」と。そういうものをつくりながら家を出てきたなという感じがしますね。大変でも楽しいかな。

新しいトライ

高田 辛いという気持ちがないというの嘘だけど、どうせかわらなきやいけないんだつたら楽しんでまおうよ。楽しむには、自分なりの色を何かつけたい。仕事の引き継ぎをするときに、「絶対に自分で新しい色をつけなさいよ」という引き継ぎ方をよくするんです。だつて、先輩のやつた

ことを上塗りするというのは一番楽しくないから。先輩のやつてきた」とことで、変えなきやいけないとこを自分で変えていくことで、一つの楽しみになつてくると思うよ。

針 子どもたちを相手にしていても、「去年、それやつたよ」というのはちょっととまづいと思うじゃない。そうなると、何か違うことやらなきやと思うでしようしね。

高田 何をやつたら楽しいかというのを考えるのもまた楽しいからね。

針 何かいつもぶつんぶつんと、ちよん切れているような感じの事業しかできていないから、余計難しいのかなと思うね。

高田 次への変化ですよね。

針 今は1期、2期のメンバーが多いというのもあるし、すぐ力のある人がたくさんいてとてもいい時期なので、変えることができるんじゃないかな。

高田 「新しいトライ」をしてもいいのかな。
今、荒川区 자체もいろいろなことにトライしているし、青少年委員の事業できえ、その中の一つの企画としてやつていけるんじゃないかな。

高橋 そういう話をあげたいじゃない。1

期の人に対する以前に、1期になるだろう人を対象にそういう話を。そうすると、「青少年委員になると、こういう話が出てくるんだよ」と言えれば、「なりたいな」という人も出てくるかも知れない。

そういう環境がつくれれば、本来の青少年委員になれるんじゃないかな。

清水 こういう話が定例会でできるといいです

よね。いろいろな興味も広がるし。

針 眠くなっちゃう人もいるかもしれない。

(笑)

高橋 本来、定例会ってそういう場なんだろうけどね。みんなが好き勝手なことを話しながら、問題があればそれをみんなで話して。

高田 もう一つ枠を広げて、「よそでは今、何をしているよ」という話があつてもよさそうですね。今、荒川区がどんなふうに動いているかという話を我々が知つておくのも一つのやり方だと思つんですね。どんなものに予算がついて、どつちへ行こうとしているのか。

針 今はボランティアという意識もだんだん高くなっているから、私たちが今までやつてきたボランティア的な仕事は、本来のボランティアをやつてくれる人たちにスライドして、私たちは青少

年委員としてほんとうにやるべきことをやつしていく形にしていけたらと思う。

高橋 今、考えられる限り、1期でやめないよ

うな雰囲気をつくりたいと思って頑張つていらんけど、なかなか思いつかないんだ。「青少年委員つていうのはこうなんだ」とだれかが言つてあげれば、「ああ、そうなのか」と思つてくれるとかなあなんて。

岡田 流れのわかる人が教えてあげると、新しい方は理解しやすいんじゃないかと思いますね。

どうして、こうふうになったのか。どんな事業についても、「こういう流れでこうなった」とわかる人が次に送る。新しい方も、わからないことは先輩に「(何)はどうなのか」と聞くことで引き継ぎができるんじゃないかなと。さつき高田さんが言つたように、同じように引き継ぐんじやなくて、引き継いだものをまた違つた形といつても構わないんじゃないかなと思います。

高田 風通しのいい状況をつくりたいですね。

そういう環境をつくるておかないと、さつき言ったような「新しいトライ」ができないし。もう一つは、行政からもっと情報提供してもらつて、その上で「考える青少年委員」になつてもらいたい。

連絡会の運営も工夫しているし、やっぱり区の情報を持つてほしい。現場に敏感な青少年委員でありたいですからね。

(平成21年2月7日開催)

和やかな中に心の熱を感じたお話をした。悩み・迷いを抱えながらも、まずは自分自身が楽しむ。とにかくやる気のあるスキルアップを目指したんですね。ひへの期待感の盛りあふる協力ありがとうございました。

